

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
10	川崎市立川崎中学校	渡部 郁子

学校教育目標	今年度の重点目標
「自ら学び、自ら考え、自ら行動できる生徒を育てる」 ○主体的に学び、公正な判断力をもつ生徒 ○思いやりがあり、感動を知る生徒 ○心身ともに健やかで、たくましく生きる生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・認め合う心、高め合う心を育てる ・清掃活動へ意欲的に取り組む ・わかる喜び、学ぶ楽しさを求める ・配付物を保護者に渡して説明する

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 【豊かな心】 生徒指導、生徒理解 ・豊かな心の育成 ・人権尊重教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係づくりのために、学級経営を基盤とした生徒指導に努める。 ・自ら進んであいさつできるよう呼びかけ、朝のあいさつ運動を継続して行う。 ・他者に対する思いやりのある言葉遣いや行動、接し方について繰り返し伝え、意識の醸成を図る。 ・多文化共生教育の視点から、学校生活における様々なアクティビティを通して、認め合う心、高め合う心を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任、学年教員、教科担当等による日常的な観察、多面的な視野から生徒への理解を深めることができた。 ・朝のあいさつ運動を年間通して行い、校内においては効果を上げた。行事の際の来賓や日常的な来客に対してあいさつする意識が低い。 ・適切なコミュニケーションがとれず、言い合いやSNSトラブル等で嫌な思いをする生徒がいた。 ・「認め合う、高め合う」を行事の際に明示し、意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に基づく生徒指導を継続し、心情に寄り添った対応を心がける。 ・あいさつを含め、学校生活の約束やルール(校則)について、生徒の意見を取り入れながら検討する。 ・学級活動、道德等の学習を通して、自らの成長や課題を見出せるような授業を展開する。 ・引き続き、人権尊重を明確に打ち出し、様々な活動を通して自他の良さに気づき、認め合う心、高め合う心を育てる。教職員は研修等により研鑽を重ね、人権尊重教育の指導方法のあり方を探究する。
2 【健やかな体】 健康・安全教育 ・健康な体の育成 ・安全な学校生活を送る教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健全な発達のための望ましい生活習慣の確立を推進する。 ・新体力テスト、身体計測、健康についての学習を通して心身の状態理解を促す。 ・清掃活動への意欲や積極性を育てる。 ・生徒自らが安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質・能力を育てる。 ・毎日の清掃活動、年1回の地域清掃に自ら取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の生徒による朝学活での健康観察を行い、健康観察簿で養護教諭が確認した。 ・外部講師を招聘し、飲酒、薬物、性教育等の授業を行い、知識や理解を深めた。 ・環境委員会とボランティアの生徒による朝の清掃活動を通して、環境美化の意識が高まった。 ・PTA、地域等の協力を得て、ふれあい地域清掃を行い、社会に貢献することの意義も学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の状態に対する理解を深め、自ら不調に対処したり未然に防いだりする力を養う学習が行えるよう工夫する。 ・外部講師による熱中症、飲酒、喫煙、性教育についての講習会を継続して行うとともに、食育に関する学習について校医による学習の機会を設定する。 ・環境美化に関する意識を高め、清掃活動への積極的な取り組みを継続させていく。清掃用具の点検や改良方法を生徒から提案させる。 ・ふれあい地域清掃の活動内容を再検討して充実させていく。PTA、地域等の意見を聞きながら、継続して協働していけるものにする。
3 【確かな学力の向上】 学習指導 ・学力の向上 ・基礎・基本を大切にされた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づいた指導内容・方法の充実を図る。 ・観点別評価と評定方法を具体的に示した指導を心がける。 ・基礎・基本となる力の定着をめざし、学ぶ楽しさやわかる喜びをもたせるように努める。 ・家庭学習の大切さを授業を通して伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づき、教材研究を行い、わかる授業の展開に努めた。GIGA端末を活用した授業を心がけ、学ぶ意欲を高めた。 ・観点別評価と評定方法についての理解は得られたが、継続していく必要がある。 ・定期的に放課後学習会を行い、基礎・基本となる学力の向上を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想を進めるとともに、授業研究を重ねて、わかる授業の実践に努める。 ・観点別評価と評定方法については、毎年丁寧な説明を行っていく。 ・放課後学習会については全校教員体制をつくり、教科や内容を充実させ定期的に行う。 ・家庭での学習習慣の確立を促す。
4 【開かれた学校】 保護者、地域等との連携 ・学校情報の発信 ・地域とともに歩む教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動の様子を伝えるための学校だよりを定期的に発行し、家庭、地域に発信する。 ・家庭配付物の内容を生徒自ら保護者に説明して渡すよう、帰り学活等で指導する。 ・生徒会や委員会活動、部活動を通して、地域とのかかわりを深める。 ・保護者、地域等へ積極的な発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配付物を保護者に渡せていない生徒がおり、繰り返しの指導が必要であった。 ・学校だよりの発行により、行事ごとに担当者が活動の様子を伝えることができた。 ・提出を要する書類には、ルビ振りや多言語表記を行った。 ・学校予算、公費に関する適正な収支及び監査・報告を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページを迅速に更新するとともに内容の充実を図る。 ・地域とのかかわり・情報発信について、意見交換を行いながら、今後も継続して取り組む。 ・提出書類、各種説明会の文書を多言語化するとともに、必要に応じて通訳を活用する。 ・学校予算、公費に関する収支、学校評価等の公表・説明を継続して行う。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者より「学校配付物を子どもが親に渡し忘れたり、内容を説明してくれなかつたりする」。また、DX化(川崎市デジタル・フォーメーション推進プラン)を重視して学校配付物はミマモルメで配信してはどうか。 ・生徒が学校生活に対して疑問をもったり改善した方が良いと思っていることを、発言しやすい工夫が必要。また、学習に関して質問するタイミングが取れない生徒がいる、曖昧な知識のまま授業を受けることがなくなると良い。 ・地域や町ぐるみで学校と関わることができるが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミマモルメでの配信は緊急に周知が必要なものに限定している。学年や部活動単位でグループをつくり、予定表送付や遠征時連絡は可能としている。今後は、効率的な情報発信・収集、紙の削減を考慮したシステム作りを検討していく。 ・2年間をかけて人権尊重教育、多文化共生教育に関する研究を行った。引き続き、認め合う心、高め合う心の醸成を図る。また、生徒理解に基づく生徒指導を重視し、教育相談の充実を図りながら不登校の未然防止を組織的に進めていく。 ・基礎・基本の充実を図るとともに、各学年ごとに育てたい力を明確にし、学ぶ楽しさやわかる喜びをもたせるよう努める。キャリア教育、教科に関する研究授業を行い実践を深めていく。 ・中学校区の教育資源を生かした教育活動の推進及び地域の行事等へ積極的に参加していく。